HUMAN NETWORK KOUSEN

ヒューマンネットワーク高専

赤とんぼ

1997.1 vol.1 創刊号

高専出身のOB・OGの躍進をめざして

この調査研究会のついては、日本工業新聞（平成１０年７月９日付け）の関連記事により、その趣旨が広く高専ＯＢにも伝わっているようです。

我々、全国高専卒業生で構成する「ヒューマンネットワーク高専」は、母校であるがゆえに高専の今後の在り方を真摯に考えておりまして、そのため、我々ＯＢが長年の企業経験に基づき高専そのものについて思うことを、貴省の「高等専門学校の今後の在り方に関する調査研究会」の参考資料として組み込んで頂きたく思うわけでございます。

さて、高専の存在意義が問い直されている昨今、ＯＢとて高専の今後の在り方について無関心ではいられません。高専が社会的意義を失いかけているという危機感に対して、単に感傷的に捉える以上にＯＢは、工業立国日本が現在失いかけている部分に警鐘を促すというスタンスで、むしろ高専の存在意義を訴えかけたいところです。

周知のとおり、モノづくり重視の実践的教育が製造業を中心に支持されてきた日本で、全国高専ＯＢは工業界に寄与し、着実に成果をあげてきました。

大学にモノづくりの教育がなくなりつつあると危惧される中で、我々ヒューマンネットワーク高専は、日本が依然として高水準の技術立国を維持するにあたっての高専の意義を明確にするというのが主たる主張であります。

そこで、我々はＯＢの現在にいたる実績に注目するとともに、さらに大学教育で達成されない部分、その部分にこそ、高専で一流の技術者を養成する役割を担うところがあると考えるわけです。

では、それが具体的にはどのような提案であるかについては、筆者また、幹事どもの主観に走らないためにも、今後、各高専の同窓会による意見等の集約を大規模に行なう予定であります。それにより、かならずや説得力のある回答を得ることができるものと確信しております。

今回は、私どものこのようなＯＢ組織が「高等専門学校の今後の在り方に関する調査研究会」になにかしらの提言をするに値する組織として、ご認知頂きたく、さらに今後の高専、ひいては日本工業会に貢献するものとして、半ば使命感にも駆られる思いで、ご連絡申し上げている次第でございます。

ＯＢからの情報提供として具体的に望まれている点につきましては、何なり

設立趣意書

高専を最初に卒業した人たちが社会に出てから30年が経とうとしています。

この30年の間に技術の世界は、少年期から大人への時代へと大きく変化を致しました。私たちは時代と共に成長を致し、この間に安定した技術を身につけ、大勢の後輩に恵まれながら、いま高専創立の目的であった中堅技術者として、会社内でも一応の地位を確保するところまで来ました。そうして、私たちは毎日愛する人たちのために豊かな社会を目指し、美しい地球を守る技術者として誇りを持って頑張っています。

これは、一人ひとりが今日まで努力を積み重ねてきた賜であり、また同時に、この学ぶ礎を身に付けさせてくれた高専教育の成果でもあります。

一方、わが国はバブル経済の崩壊や産業の空洞化の問題を抱え、進むべき道を見いだせないまま足踏みをしています。政治、経済、教育いずれの分野の人たちも、本当の大人の時代の扉を押せずに困惑しているようです。また私たちも技術者をはなれてみたときには、社会の一員としての充分な知識や、行動力、人脈に豊かなものを持てないままにいます。こうした様々な問題が現在の私たちをとりまいており、その一つひとつに選択を迫られている時期と言えましょう。

そうした問題に対峙するには、個人の力の及ぶところではありません。私たちはエンジニアも人であり続けるために連帯が欲しいと考えます。

現在高専は全国に62校設置され、どなたの近くにもその門戸は開かれていますし、高専の門をくぐった者は30万名を数え、全国津々浦々あらゆる企業の第一線で活躍しています。この前線の人たちが、同じ青春を過ごし

た「高専に学んだ」というキーワードで、ひとつにつながれば素晴らしいと考えました。

15才から20才までの多感な時期を共有した高専のOB・OG達が、各々の出身校の枠をはずして、全国がひとつの高専ということで集合し、各地で産・学の創造研究に携わったり、地域における第一線の技術者による研修交流や経済交流をはかり、それぞれをネットワークでつなぎ、全国規模の活動にすることにより、大きな新しい力を生み出せると確信します。

また、この活動をとおして私たちや高専を社会にもっとアピールして、技術を志す若者に光明の指針を与えることができれば、高専の発展にも貢献でき、人の輪は厚くより強い力となり得るでしょう。

私たちは、心でつながった技術の21世紀を迎える準備として、1996年10月5日に全国各地から集まり、ヒューマンネットワーク高専を設立しました。

この会は全国の高専出身者によって自主的に運営され、まずはじめに地域毎の集まりを日常普段のつき合いの中から育て、さらに研修会、懇親会等を各地で計画し、それぞれをパソコンネットワークでつなぎ、相互に連携を持ちながら、高専を交えた中地域、全国規模の研究発表会、交流会等を通して人の輪を広げていくことにより、孤立した技術者からグローバルの意識を持った技術者集団への脱皮を計ろうというものです。

皆さまの入会を歓迎いたします。一緒に高専技術文化の花を咲かせましょう。

ヒューマン・ネットワーク　高専

入会申込用紙

登録　　年　月　日

コードNo.		高専　　期　　工学科			写真
氏　名		フリガナ			
現住所					
電　話		FAX			
個人情報	資　格				
経　歴 特　技 趣　味 その他					
勤務先					
所在地				〒	
所　属					
役　職					
電　話		直通電話			
FAX		携帯・自動車電話			
会社概要・他	業　種				
業務概要 その他					
会又は会員にメッセージが有りましたらご記入下さい。					

記入が済みましたら下記へFAXして下さい。

『ヒューマン・ネットワーク高専』事務局
FAX 0268-42-6850

〒386-04　長野県小県郡丸子町腰越2737-286
宮下和美　　TEL 0268-42-5620

ヒューマンネットワーク高専会誌　創刊号

目　　次

巻頭言　ヒューマンネットワーク高専設立にあたって …… 代表幹事　井崎淳一郎 …… 1
ヒューマンネットワーク高専設立にあたって …… 代表幹事　石山　彰雄 …… 2
会誌創刊にあたって …… 代表幹事　田玉　治實 …… 4

総　会　祝辞 …… 国専協　長野高専校長　森　　肅 …… 6
祝辞 …… 高専学会　都立航空高専　吉田　喜一 …… 9
ごあいさつ …… 準備会代表幹事　山崎　　元 …… 12
総会議事録 …… 13
旧役員挨拶 …… 17
新役員挨拶 …… 17

分科会報告

第１分科会　ヒューマンネットワーク高専の運営 …… 19
第２分科会　ヒューマンネットワーク高専と地域のＯＢ、社会との係わり …… 27
第３分科会　ヒューマンネットワーク高専における異業種交流 …… 32
第４分科会　ヒューマンネットワーク高専の産学共同研究と高専制度 …… 35

編集後記

〔資料〕　ヒューマンネットワーク高専役員及び設立総会出席者名簿

巻頭言

ヒューマンネットワーク高専設立に当たって

ヒューマンネットワーク高専代表幹事
宇部工業高等専門学校　電気工学科１期卒　井崎淳一郎

わたしは、平成７年10月20日付け日本工業新聞の第１面で、「ヒューマンネットワーク高専」構想がトップ記事として紹介されたのを見て、驚きと歓びを感じられずにはいませんでした。

そのヒューマンネットワーク高専の活動がいよいよ始まります。平成９年６月に開催する総会までには、試行錯誤の範囲に留まることと思いますが、ともあれ高専生全員の手作りの参加型ネットワークが登場して、皆さんに向けて動き出しました。

わたしは、５年前から輸入促進の業務に携わっております。目的とするところは、日本の大幅な貿易黒字を減らして収支を均衡させ、もって生活向上させることだと理解しております。

主として中小企業・個人企業の方々（国内外とも）と接していますが、もっとシステム的取組・展開が出来ないものかと、常々、感じております。貿易取引の経験も無いのに輸入事業への参入を試みられたり、異業種からの新規参入・新規商品の取り込みを行われる企業・個人が相当数おられます。積極的なところは、よろしいのですが、結果として成功には至りません。

かかる事例を紹介しましたのは、卒業年代が１桁のOB生は多かれ少なかれ似たような状況に位置していること、また、具体的な個別活動の進め方について、最初は個人の発信が契機となっても、全国62の高専がネットワークでつながっていれば、広く深く情報が伝わります。情報の共有と共に、的確なフィードバックが寄せられると思うからです。

われわれは、資金は不足していますが、実践で培われた技術経験・知識は豊富のはずです。本ネットワークは、起業家を目指す方々には有効であり、会員に対しても、すくなからず自己実現に役立つものと思います。

また、人の輪がつながって、将来には高専文化が醸成されることを期待してやみません。

巻頭言

ヒューマンネットワーク高専設立に当たって

ヒューマンネットワーク高専代表幹事
富山工業高等専門学校　機械工学科３期卒　石山彰雄

昨年10月５日のヒューマンネットワーク高専の設立総会に於いて複数代表制が提案され、その一人に私が指名されました。その就任の挨拶の時にも述べましたが、ヒューマンネットワーク高専を牛耳れる訳もないので、せめて北陸地区くらいを担当させて頂く程度のことで勘弁願えればと考えています。

人間いずこに居てもよく似た様なことを考えるもので、私も平成７年夏に北陸地区の高専の同窓会長・世話役（福井高専・石川高専・富山商船高専・富山高専）を集めて、全国的な組織作りの提案を始めたところでした。

同じ頃、日本高専学会が設立され高専教育とその制度について、教官ばかりでなく高専の関係者すなわち我々高専の卒業生を含めた人達で、高専とはいかにあるべきかを真剣に考えるための組織ができたことを小耳にはさみ、早速入会させて頂きました。

そしてまた、その学会誌の中でヒューマンネットワーク高専が組織されることを知り、早速事務局にFAXして即刻入会しました。

私が北陸地区で旗揚げした時には予想だにもしなかった事態がとんとん拍子で進んで、考えていた全国的な組織作りも単に時間の問題だけとなった感じです。

私が全国の組織作りを目指すのは、高専制度というものをもっと広く社会的に認知させ、実力に見合った社会的評価をきちんとしてもらうためのものです。

高専卒業生又は高専に関係する人々は、日本の人口比率のなかではごく少数であることは論を待ちません。だから私達は団結しなければならないし、団結もしやすいのだろうと思います。そのためにもヒューマンネットワーク高専は単なる情報交換や自己の利益誘導のためだけの集まりであってはいけないのです。いかにして高専制度を社会的に認知させるか、高専制度を発展させていくかを常に考えながらのネットワークでなければその存在意義はなくなります。

そういう意味においては、来賓の祝辞で長野高専の森校長先生が国専協会長の東京高専校長の弁を紹介しておられましたが、「できれば各高専にしっかりした同窓会が組織されているから、それを総合するような全国の高専の同窓会の連合会のようなものが組織されれば、いっそう素晴らしい」こういう組織作りをしてゆこうと考えています。

そのなかで、とり急ぎ改善されなければならないのは、「高等専門学校」という名称の変更に関することであろうと思われます。この制度の創設当初より「専科大学」構想がなされていながら、そして国専協の長年の努力にも拘わらず一向に進展しませんでした。我々卒業生はもっと真剣に自分の卒業した学校について考える義務があると思います。

単なる名称変更だけではなく内容が伴ったものでなければならないという議論もありますが、現在の高専制度そのものは6・3・3・4制度とは異なる制度で、専門課程も大学と同程度のカリキュラムが設けられています。内容的には充分であるにも拘わらずその名称が伴っていないところに、社会的認知が得られない原因があると思います。大学と同じ高等教育機関でありながら「専門学校」「工業高校」と同様なイメージしか得られていません。ここからの改善を訴えていこうと思います。

私は、このヒューマンネットワーク高専をそういう立場から発展させてゆきたいと考えています。

巻頭言

ヒューマン・ネットワーク高専
会誌創刊に寄せて

ヒューマンネットワーク高専代表幹事
長野工業高等専門学校　機械工学科１期卒　田玉治實

今年の10月５日は、今までヒューマン・ネットワーク高専設立に向けて準備を進めて来た仲間にとって記念すべき日となりました。全国各地からヒューマン・ネットワーク高専設立に賛同していただける仲間が集い、東京池袋ホテルメトロポリタンにおいて設立総会を執り行うことが出来ました。準備を開始してから５年、準備委員会を発足させてから約３年、会員各位の地道な努力によりスタートラインにつくことが出来ました。

今後この会をどのようにして発展・継続してゆくか、全会員の皆様の知恵と行動により決まって来るところですが、まずは会員相互、又はグループ同士がどのようにして密接に意見の交換や連絡をとりあえるかが一つの重要なテーマとなってきます。その手段のひとつとして、今回創刊した会誌は重要な位置を占めるものです。会員の皆さんからの多くの意見・提案の発表の場として多数寄稿いただき、内容の充実した会誌として今後継続してゆけることを期待しています。

また情報化時代といわれます現在、会と致しましてもFAXや電話はもちろん、今年１月にスタートしたBBSやインターネット・商業ベースのパソコン通信等を有効に活用して情報・連絡の輪を広げてゆきたいと思いますので関連の業務に就かれている方、またこの方面の知識・技術をお持ちの方の積極的なご協力をお願いいたします。

なお来年度の第２回総会は'97年６月を予定しておりますが、会の活動方針・会則等重要な議題の討議とともに、魅力ある分科会を準備し会員皆様の手で成功させたいと思いますので今からご準備の上、また、多くの新会員・新グループを勧誘頂いてのご参加を期待しております。

最後に、今回は事務局が設立総会の録音テープを元にして総会の内容を会誌にまとめてくれました。その多大な労苦に心より感謝したいと思います。

はじめに

1996年10月５日、東京池袋ホテル メトロポリタンに於いて、設立総会が開催され、ヒューマンネットワーク高専が設立されました。

設立総会には、会の設立に際し、特別なお力添えをいただいた国立高等専門学校協会の森氏、日本高専学会副会長 吉田氏、日本高専学会 米内山氏らの御来臨を賜わり、準備委員会より会の設立趣旨、準備活動経緯などの説明。更に、代表幹事など役員の選任、事業計画案、予算案などの承認も行なわれ、次回'97年６月の総会に向けていよいよ始動することになりました。

本編では当日の議事、経過を忠実に記録しここにご紹介いたします。

設立総会　式次第

1．開会の辞
2．幹事挨拶
3．祝　辞
4．議　事
　(1)　経過説明
　(2)　会則、事業計画、予算(案)
　(3)　役員(案)
5．新旧役員挨拶
6．閉会の辞

分科会による意見交換

1．《ヒューマンネットワーク高専の運営》
2．《ヒューマンネットワーク高専と地域のＯＢ、社会との係わり》
3．《ヒューマンネットワーク高専における異業種交流》
4．《ヒューマンネットワーク高専の産学共同研究と高専制度》

祝　　辞

国立高等専門学校協会　国立長野工業高等専門学校長　森　　肅

この度は、ヒューマンネットワーク高専が設立されましたこと、心からお祝い申し上げます。昨日、国立高等専門学校協会の春山会長（国専協会長　東京高専　春山史郎校長）にお会いする機会がありましたので、お話しを致しましたが、春山先生都合により出席できないので、大変残念だが伝言を、と言うことですのでお伝えします。

「ヒューマンネットワーク高専の設立を心からお慶び申し上げます。また、発展を期待いたします。宜しくお伝え下さい。」これが国立高等専門学校協会の正式なメッセージでございます。改まってお話がございましたが、「以前にこのように全国の高専の横のつながりを計画した事があるが、残念ながら失敗に終わった例があるけれど、この会はそんな事はないと考えます。できれば各高専にしっかりした同窓会が組織されているだろうから、それを総合するような全国の高専の同窓会の連合会の様なものが組織されれば、いっそう素晴らしい。この会をそれのきっかけ、或いはこの会でそれをお世話するようなことをして頂ければ有り難い。」と、おっしゃっておられました。また「趣旨は違うかもしれないけれど、高専の発展のために卒業生の皆様の一層の団結という意味でも、そう言うことを一つの考えとしてご配慮を頂ければ」とのコメントがございました。

さて、私は縁がございまして、事務局や幹事の方の母校という事もあり、非常に早くから情報を得ることが出来まして、昨年本校が日本工業新聞社の高専シリーズの取材の際に奥長さんにヒューマンネットワーク高専のお話をしたところ、早速工業新聞のトップ記事として紹介されたという経緯がありました。また私の方から国専協にお話を致しましたところ、国専協としても非常に関心を持ったということがありました。それから１年ぐらい経ったところ、国専協の方からどうなったかとのお話があり、非常に関心を持っておることを、ヒューマンネットワーク高専の幹事に伝えたところです。

そんな訳で、いま全国高専のネットワークが誕生したという事で、たいへん喜ばしいことと思っております。

高専が発足致しましたのが昭和37年、それから34年が経過いたしました。そのとき第１期校として国立は12校ありましたが、来年はその第１期生の方が卒業されましてから30周年を迎えるわけで、たいへん切りのよい時に当たります。またその後の科学技術の進歩、それから社会の非常な発展に伴いまして、高専も年々様子が変わっています。当初は12校でしたが、現在国

立54校、それから公立５校、私立が３校ということで、現在高専は62校と言うことでございますが、依然、全国的な高等教育機関の中では少数派ということは間違いないと思います。

お陰様で高専は、卒業生の皆さんのご活躍の結果、非常に高い評価を得ており、学校の立場からも有り難く思っております。超氷河期と言われる就職の方でも大学等では完全就職が出来ない状況でございますけれども、高専の方は好評で、私ども長野高専では昨年の求人倍率は14倍を越えております状況で、ほぼ100％の就職が出来たという事で、非常に有り難い状況にあるといえます。しかし、一方において世界情勢の急激な変化、バブル経済の崩壊等のなかで、小学校から大学まで戦後最大の教育改革が進められているという状況でございます。

これは21世紀への学習社会に向けての準備かと思いますが、高専につきましても平成３年に学校教育法の改正で制度が改められまして、高専に新たに専攻科の設置が認められました。

又、今迄は工業と商船の分野にしか高専は認められていませんでしたが、改正により分野の拡大ということで文系・デザイン系の高専もできるようになったということで、国立高専の中にも経営・デザイン関係の学科が新しく出来るようになり、そのように範囲が拡大したという事です。

それで平成８年現在で国立が16校、公立が１校、17校において専攻科が設置され、更に年々増加していくことになるでしょう。そうしますと従来は教育という面だけでしたが、将来は研究という面でも促進しなければならない訳でして、これからは単に教育ばかりではなく選択技術を選び研究していくという事ですが、それによって基礎がおろそかになってはいけません。今後そのへんをどういう具合に対応していくかという問題が大きな問題になっているわけです。21世紀になって高専も教育改革に乗り遅れないで、今後どのような理念で高専を新しい社会に対応させていくかということが問われています。

平成３年の制度の改正と同時に設置基準の再考化・弾力化が行われましてカリキュラム等は弾力化されました。結果的には各高専の自己努力によって成果が求められるということです。いままでは、金太郎飴でどこへ行っても同じ様な高専、高専は同じだという風合いが強かった訳ですが、これからの高専はそうではなく、それぞれの高専が各々の特色を発揮して地元との連携を計りながら発展していくということが求められている状況でございます。そういった中で高専はやはり大学とは違った発展を進めていく必要があろうと思います。大学の後追いでは結局は三流大学というようなことで明らかな道ではございませんので、高専は高専として特色を生かしながら一つの高等教育機関として今後とも発展していく必要があると思っております。

そういった意味で高専学会の設立が、やはりそういった背景があって高専としての発展の道を探って行かれるのではないかと思っております。高専が背を伸ばして行くということになった場合、一番大事なことは高専の本源であります。高専本来の姿というものを常に確立しながら進んでいく必要があります。そういう意味で今迄は高専がお互いに連係を保ちながら、確認

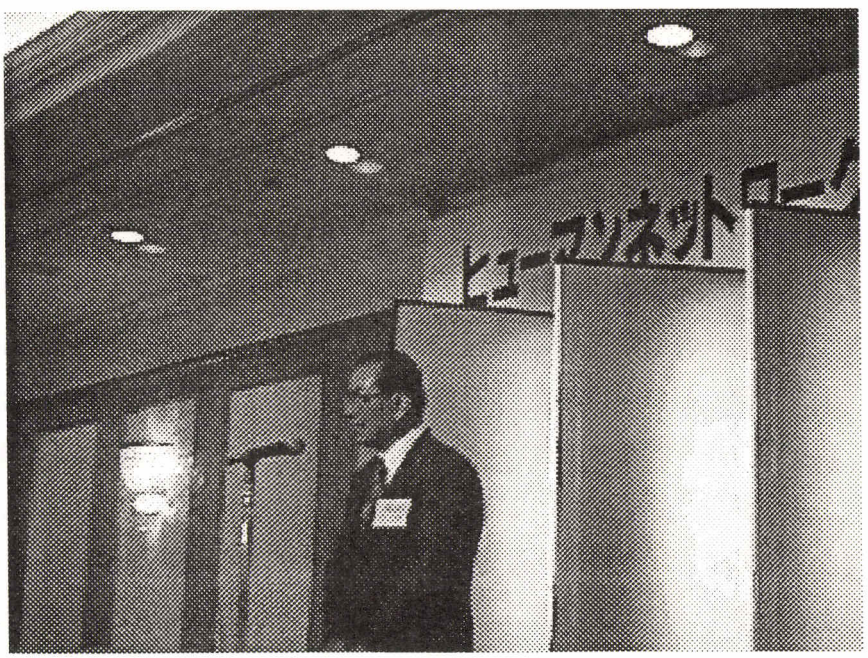
をしながらお互いの発展を進めてきたのだと思います。

そういった背景の中でのこのヒューマンネットワーク高専の誕生は、全国高専の学校間の連携と発展に寄与すると思います。加えて今迄は各職場とか地域で各高専間の小さいつながりで有ったかと思いますが、今後は全国規模で高専全体の卒業生の皆さんがつながりを持ちながら高専の発展の為に活躍して頂けるということは、私たちにとって有り難いことだと思っております。

長々と話をしてしまいましたが、今回めでたくヒューマンネットワーク高専が発足されましたこと、改めてお慶び申し上げます。そして、代表幹事の方からお話があったように大きな夢の実現に向けて、ヒューマンネットワーク高専が更に発展されますことを心から祈念申し上げます。

私達も、皆さんと連携をしながら、発展をはかっていこうと思っています。

本日は本当におめでとうございました。



祝　　辞

日本高専学会　副会長　都立航空工業高等専門学校教授　吉田　喜一

本日はおめでとうございます。ただいまご紹介頂きましたところの、昨年発足した新しい学会の、日本高専学会の副会長を仰せつかっております都立航空高専の吉田と申します。

卒業生の結婚式などでは必ず学校の名前を間違われます。きょうもそうでありまして、都立航空工業高等専門学校が正式名ですが、今も工業が抜けていたわけです。新しい校長が来たとき入学式で学校の名前を間違える事がしょっちゅう起きています。『よく本校にいらしゃいました』と言うときに学校の名前を間違える校長が続出します。そういうコウという字が4回出てくる都立航空工業高等専門学校を卒業し又、勤務いたしております吉田と申します。

先程、森校長先生からお話がありましたように高専が発足して34年が経った訳ですけれど、非常に色々なことがありました。発足当時は高専教育の振興の為ということで、国専協の色々な高専間のシンポジウムその他に出席をした記憶がございます。

高専卒は現場に強い技術者を目指していた一方で、学部卒は図解析に強い技術者を目指していたという様なことを言った時期があります。その後今から15年位前には、高専振興方策というパンフレットができましてその時には、「高専卒は実践的技術者である」と、「学部卒は理論的技術者である」という事を言ったこともあります。最近では「know-why進行型の技術者」と「know-how型の技術者」と分けて、高専卒をknow-how型の技術者であるというふうに分類すると言うような事を聞くわけでありますが、エンジニアを何らかの型で2つに分けて一方を学部、一方を高専というふうに分類するのはどうであるかの議論をだいぶしたことがございました。

そうして、高専論のこともございますし、高専における教育と研究と制度についてこの際大いに議論して、一定の物をもしまとめられれば、まとめようではないかという事で、国専協と文部省と協力しながら作った学会であります。そもそも出生の秘密は、高専に働く教職員の労働組合の教育研究集会というのが昔あったのですけれど、全国高等専門学校組合協議会というのがございまして、この教育研究部門での教育研修会等の議論がスタートでありました。その後、組合運動の中で大学と高専の教職員組合が日教組から離脱して、全国大学高専教職員組合・全大教といいますけれど、これを数年前に作りまして、その全大教に高専協議会というのがございまして、そこで高専の振興策・高専改革プランと言うのをこの4～5年かけてまとめた次第です。

この高専改革プランの提言の中に三つの柱がございまして、一つには日本高専構想、二つめが高専大学構想、これは高専の大学化と言う意味ではございません。高専は大学であるという認識でございます。三つめが高専学会の設立です。この三本柱を設定いたしまして、その一つの結果が日本高専学会の設立でございます。

提言は組合運動としてやりましたけれど、発足の総会には当時の国専教の先生、その他民間企業、高専の卒業生を含めて、非常にバラエティに富んだスタートをすることができました。それを本校で数年前、新校舎が出来たばかりで、かつ７月の末は墨田川の花火がちょうどある時期でありますので、縁起が良いというので本校で昨年開いたわけです。そういう関係で本校を代表して私に副会長の仕事が回って来た次第であります。会長は奈良高専の名誉教授であられます、田中冨士男先生。おそらく皆さんお使いになった高専の物理と言う教科書の著者であります。田中先生でございますけれど、きょうはご都合がつかず、私が代理という訳で出席させていただいた次第でございます。

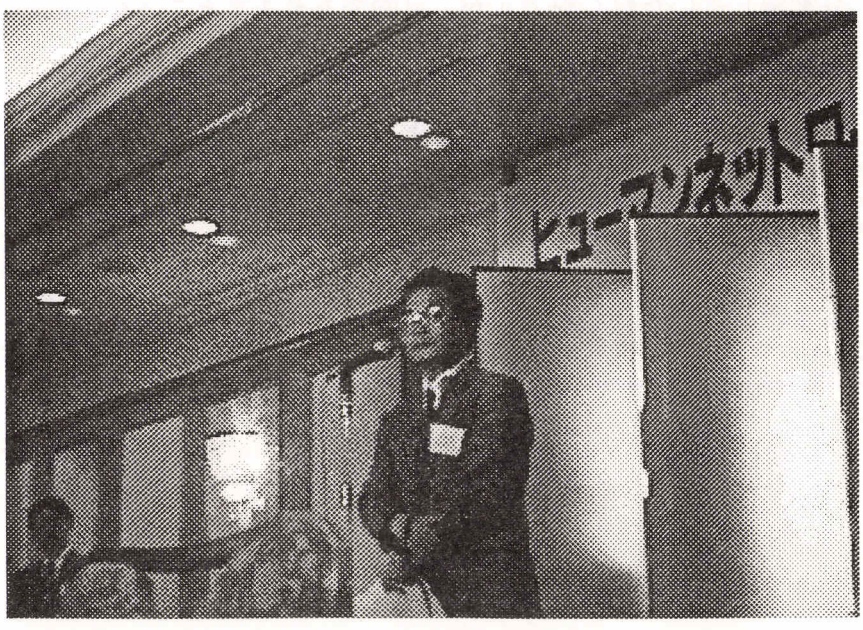
今も森校長先生からもお話がありましたように、いつも言われていることでありますけれども、高専は曲がりに曲がってどこにいるのかという状況にある訳ですけれど、そういう中でも良い面、問題点いろいろ抱えております。そいうものをOBあるいはOGの皆さんと是非一緒に、いろいろ話し合い、連携をとりながらやっていければと思っております。私自身先程言いましたように高専の２期生でありまして、今から思えば非常に苦しくもあり、楽しくもあった５年間をまざまざと記憶している訳ですけれど、はっきり言ってご承知のとおり悩み多い学生時代を過ごしたと同時に、それでは今の日本の教育が高校、大学のラインの流れで良いのかというと、そっちの方がよっぽど悪いっていう風に言わざるを得ないと言う状況があると思っています。政治の方で制度疲労という風によく言いますけれど、今の６・３・３・４というのは僕から見るとだいぶ制度疲労してですね、偏差値輪切りの、本来の教育でない教育方向をむりやり全国民的に押し付けているという状況を、自分の子供達を見ると感じるわけでありますけれど、そういう中で翻ってもう１回高専をみると、これが本当に教育をやれるシステムじゃあないだろうかと、最近高専学会やいろいろな教育の場でも段々確信の輪が広がって来ているという風に思っています。

先程校長先生もおっしゃたようにいろんな改革がなされていく中で、例えばカリキュラムの改業があって、我々は１年生の時から８時間授業などあって、だいぶやったのを憶えているわけですけれども、今は当時から見ると20単位以上減っているはずです。今回も週休二日制で本校でも10単位減らしました。その前に10単位位減らしておりますので、当時から見れば減っているはずですけれども、それでもまだいろいろ問題がある。単位を減らすだけが問題じゃないと思っているわけではありませんけれども、我々は教育の方法などを大学、高校の先生に学んでいかなければならないと言うようなことと同時に、今お話がありましたように、研究の面で

も日本或いは世界を引っ張っていく、そういう力にならなければならないと言うように、高専の先生も大変な状況に追い込まれています。過労死で死ぬ率が高専の先生がべらぼうに高く、本当にそうなんです。公務員そのものが民間企業に比べて過労死の率が高いのですけれども、その中でケタ違いに高専の先生が多いんです。自殺も結構ありますし、本当に過労死もだいぶありましてですね、要するに大学の先生が高校生を教えて、高校の先生が大学の研究をやらなければいけないという風な、瞬き状態に入っているわけですね。どちらか一方に割り切りたい、という気持ちが普通の先生にはどうしても出て来るんですね。高専の先生は高校、大学或いは民間企業から3分の1位づつお見えになるわけですが、どこかにウエイトを置きたいという気持ちと同時に、5年間子供から大人まで教育しなければならない中で、子供に対すると同時に大人にも対するという中で、高校の先生は高校の先生として子供として扱う。大学の先生は大学の先生として、多少問題があっても大人として扱う、というふうに日本の教育はなっております。けれど、高専は「さなぎの時代」と「蝶々の時代」を両方担うというふうに全部担うみたいに、非常にやりがいのある商売でありますけれども、子供だけで扱う・大人だけで扱うという割り切り方の出来ない厳しい、苦しい、ある意味では本当に楽しい、さなぎから脱皮して蝶々になるのを全部見ることが出来る、本当はやりがいのある仕事、と同時にそういう教育もしながら、世界的に通用する論文も書かなければいかんという状況になっております。そういうことも実は高専学会の論文の中でも、過労死の率が本当に高いというデータが報告されているんですけれども、そういう点で、いろいろ気分、条件などを考える、というような事も含めて教育と研究と制度について討論しようという学会でございます。

ということで是非これからOBの皆様方にもいろいろなアンケート、或いは招待講演等なども是非お願いしたいと思っております。

今回は本当におめでとうございました。



ごあいさつ

ヒューマンネットワーク高専準備会代表幹事
長野工業高等専門学校　機械工学科１期卒　山崎　元

本日は公私共々お忙しいところヒューマンネットワーク高専の設立総会に御出席いただきありがとうございました。

この設立総会に当たりましては、長野高専の森校長先生、日本高専学会の吉田副会長のご来賓を頂戴しまして開催することが出来ました。本当にありがとうございます。

議事に入った中で経過説明がございますが、４～５年前に同じ15才から20才の時代を、地域の差こそあれ、同じ環境の中で工学を目指した卒業生が全国にすでに20万人も存在しています。この工学を志した高専の卒業生が全国規模で一同に会して、技術を志す若者に指針を与える事が出来たり、或いは地域の中で産・官・学というようなものの創造に携わることができたり、また、地域の特性を生かしながら工学に関係する研究会なり発表会なりを催す。こういう事が出来れば、非常に大きな力となります。

また、大きな表現をしますと、日本そのものの技術的な優位性を更に進めることが出来るのではないか、というばかでかい夢を見た思いつきの中で、５年程かけて参りました。本日ここに11の高専の卒業生の皆様が集まっておられます。議事の中で今後の進め方等充分審議していただく訳ですが、目的でありますところの、高専を卒業した皆さん、関係する皆さんが全国的なネットワークを持つことにより、更なる発展と日本そのものの技術の優位性を保てるかと思っておるところでございます。

そのような趣旨をご理解いただきまして成功裏にこの設立総会が運ばれますことを皆様にお願い致しまして、簡単ですが幹事から一言ご挨拶を申し上げました。宜敷お願いいたします。

総会議事録

議長登壇　横沢由明　長野高専４期卒

経過説明　田玉治實

経過説明でございますが、本日の会の目的は、遠方からおいで戴きました皆様に出来るだけご意見を戴きたいという訳で、経過を簡単にまとめてお配りしてあります。また、これからご提案申し上げる内容も、簡単ではございますがお手元の資料の方にまとめてございます。

基本的にはこの資料をお読みいただいて、いろんな検討はこれから予定しています分科会の方でご意見を頂き、それを集約して今後の活動方針にしていこうというのが基本的な考え方でございます。では簡単に補足説明を申し上げます。

1993年に最初に13名が集まりまして発足の会を開きました。この当時は長野高専だけで、他の高専へ声を掛ける前に母体を作らなければいけない、ということで川越まで長野から出て参りまして、こちらの方に就職しておられる方と一緒にと集まって、こういう物をつくりたいと話し合いました。これは元の考えは、校長先生や高専学会の先生方からいろいろお話がありましたように、高専の改革ということも方針に入っておりますけれど、基本的な考えは同じ土壌に育った高専制度の中から育ってきた者が、いろんな機会を持ってふれあう場を持ちたいと考え、ことの初めは、長野に於いて大手企業の数指に入るある企業の中に、高専の卒業生が百数十名居られて同窓会が有ったわけです。ところがその会は長野高専を中心にやっていて、他の高専の方がおられるのに声を掛けてないことを聞きまして、それはまずいじゃないかという事が発端になりました。という事は私達の高専も他へ行ったときに同じ扱いを受けている懸念が十分ある。だったら是非声を掛けて高専としての一つの土壌を作ろうではないか、というような形でこのネットワークの会が始まりました。

それからいろいろ試行錯誤で、会員の方々からカンパを頂きましてリーフレット作りまして、当初8000部位作りまして、各高専の同窓会宛にお送りいたしました。けれど、手紙を送って入って下さいという形では殆ど反応がなく広がりませんでした。こういう時代ですので、ではコンピューターを使ってどうにか連絡方法がとれないだろうかと考えた中で話が進んできまして、今年の１月に長野にパソコン通信のホスト局を設置しましたところ、各高専からトータルで40数校の方からアクセスを頂きました。この方式と会議とをうまく併合していけば、ネットワークと言う名のとおりの組織が出来るのではないかという事で進めてきました。そして、準備不足のままではございますが、まず会を発足させて、皆様にお集まりいただき、そこで意見を集めようと言うことになり、今日の設立総会に至りました。

では引き続いて事業計画・予算案の説明を致します。基本的にはここでも、皆さまにご意見をいただくという事で進めたいと思います。ただし、会計年度は少し変則ではありますが４月

末年度を提案いたします。５月１日から４月末までの年度を、基本的に考えております。年度を閉めて決算をして６月頃が総会という日程にしておけば、皆様に一番余裕のある時期にお集まりいただけるのではないかと考えまして、この半年ほどの中で一定のまとめを致しまして、来年の６月に２回目の総会でお諮りしていきたいという事で、それ以外は準備委員会の方からいろいろご提案申し上げるべきでないとして、基本的な考え方は、今日ここでご意見をいただいて、それを新しい役員の方々で集約してやっていこうと考えております。ですから会則・事業計画・予算案等具体的な提案はございません。第２回で正式なものを上程いたしたいと思います。ただし、会の全体像というものは、インターネットに近いようなネットワークを構成しながら、無理なく参加できて更に全国的な大会にも参加できるという組織作りを目標としております。これも今日の分科会のテーマとしてとり上げてありますので、そちらの方にご意見のある方はこれから席替えをしていただいてご意見をいただきたいと思います。

それからパソコンネットですが、現在の通信の他にインターネットの商業ベースの通信もできるだけ利用の範囲に入れていきたいと思います。ただ今正会員が85名で、BBSが130名を越えましたので、トータルで220名程になっておりますが、当初の資金は自主的かつ民主的に運営していこうということで、準備会の入会金および会費をそれぞれ戴いた分と、あくまで個人的に寄付をお願いした資金しかございませんでしたので、BBSが一番お金の掛からない局として開局しました。年内にはインターネットの中にホームページ等作ってやっていきたいという計画もございます。

それから地域におきましても人と人がお会いして、日常的なつき合いの中での情報交換等も必要と思います。当初のネットワークの考えはいきなり全国規模の交流ができないものかという形で始めましたが、草の根的なものとそれから全国的なものとを上手くミックスした会の活動方向を、基本的には進めていきたいという希望でございます。

それから準備会から本日の設立総会までに掛かった費用でございますが、設立総会に出来るだけ大勢お集まり戴きたいと考え支出しましたので、この総会で殆ど使い果たしてしまうようになります。残金につきましては本会に繰り入れ、次回に準備会の詳しい御報告を申し上げます。基本的には入会金１万円、会費は月500円で年6000円としていただきました。

準備会として本会の予算を想定致しましたものは、初めに大雑把な経費を計算しまして、大体100位のグループで負担するとして、事業費を分割したものを会費としました。又グループの件については分科会で検討いただく訳ですが、事業費は当初240万円位で運営出来るだろうというものです。これは、事務局員にパートさんを雇ったりした概算の予算でございます。細かい費用につきましては、これも分科会でご意見をお伺いしてまとめていきたいと考えますので、会則・事業計画・予算案としましてはこのような形でお願いしたいと思います。

（資料）

(1) 経過説明　　田玉治實

1993/7　　於　川越市　参加者13名で発起人会

会の目的を全国の高専出身者が集まれるものを作ることで合意

1994　　準備会として、同志を募ると共に会則等を検討し、リーフレットを作製して、年末に全国の高専の同窓会宛にご案内を発送

1995　　従来の手紙と足による普及と合わせて、パソコンネットワークによる広報活動にはいる

1996　　パソコン通信BBS局開局に合わせてニュース発行、全国から意見が届き始める

1996/10/5 ヒューマンネットワーク高専発足

(2) 会則、事業計画、予算案

会則、事業計画、予算案等通常総会に上程する形式のものは、本日の分科会の意見を集約し、更に半年間掛けて整備し次回来年６月の総会に上程します。

しかし、半年間の活動のために、簡略の計画は承認願います。

〔会の全体像〕

各々を取り囲む地域と企業毎に集まりを持ち、責任者と、パソコン通信が出来る事務局会員を選び、パソコンネットを構築しながら広めていく。

〔地域、企業における活動〕

小さな地域では日常普段のつきあいが出来るようにする。

数グループ、中地域毎に、年に数回を目標に懇親会等を計画し、

研究、交流を深める。

〔全国〕

年１回の総会、数回、研修会、交流会を計画する。

〔予算、準備会決算報告〕

現在まで準備会入会金10,000円、会費6,000円と会員の篤志で賄ってきましたが、パソコンキー局の整備、人件費、総会等の費用として、グループ会員制にし、当初全国100グループとして、グループ会費24,000円、お願いしたい。

ただし個人会員として、参加を希望する方は従来通りとする。

(3) 役員案

複数代表幹事制をとり柔軟な活動、対応がとれるようにする。

代表幹事は地域等を考慮して幹事の中から互選で選出する。

幹事の推薦案は別紙によるものとする。

議長　流れの中で、今まで幹事会等、何回も行いましてようやく今回の設立総会ということで、来年第２回の総会までに皆様のご意見を集約して、提案していきたいというのが準備会の大まかな流れのようです。

これまでの件につきご承認いただけますか。

（拍手承認）

議長　それでは分科会の方で討議を深めた上、半年掛けてまとめていくという方式の会則、事業計画、予算案についてご承認が得られたという事で、次の役員案の議事に移ります。

田玉　役員案の基本的な考え方は、ここに刷らせて頂いたように広い地域にまたがりますので、準備委員会は単一代表制でやって参りましたが、本会は、これも分科会で討議頂くわけですが、複数代表制を御提案申し上げます。地域を代表してというふうに考えて頂ければと思います。

次に幹事ですが、今までは長野出身者が多数を占めておりましたが、出来るだけ地域を担える方をと考慮しました。また、本日出席された方がいちばんの賛同者であると考え、その中から引き受けて頂くのが順当であろうと、考え選任させていただきました。

事務局長は事務処理の都合上暫くの間、長野の方で留任させていただこうと考えております。

代表幹事・幹事につきましては、本日の参加名簿の末尾に案を提示してありますので、ご承認願いたいと存じます。尚この他に私も幹事をと希望される方は、その都度引き受けていただくという事も含んで御提案申し上げました。又複数の代表幹事として地域を担って頂ける方には、その都度、お願いをしたいと考えておりますが、その点も含めて御提案申し上げますので、宜敷お願いいたします。

議長　では、代表幹事、幹事を本日の設立総会参加者の中から選任し、来年の第１回総会の間までを運営して頂く役員として、又この他にも幹事等ご協力出来る方にはお願いしていくということでご承認いただけるでしょうか。

（拍手承認）

（　閉　）

旧役員挨拶

旧準備委員会代表幹事　山崎　元

本日只今、御出席の皆様のご賛同を得まして解任ということになった訳ですが、準備委員会を進めて参りました山崎でございますけれども、今後は一幹事としてこの会の発展の為に微力ながら尽力していきたいと思います。

準備委員会の代表幹事をやっている間は皆様方のご協力本当にありがとうございました。これからの代表幹事の方に精一杯協力をしていきたいと思いますので宜敷お願いいたします。

どうもありがとうございました。

新役員挨拶

新代表幹事　井崎淳一郎

私は、出身は福岡県の中間市です。宇部高専の電気工学科卒の井崎と申します。東京へ出稼ぎに出まして24年目になります。今日来られている方は、遠方よりはるばる来られた方が多いと思いますが、ちょうど昨年の10月でしたね。先程国専協の校長先生からお話がありましたように日本工業新聞の一面記事に、10月20日と思いますが、私も宇部高専OB会の世話人というか事務局長を、十何年しておりましたがなかなか輪が広がりませんでした。

初めは電気工業科の同期生それから隣組へと、段々に幅を広げてやっていたのですが、４年前から全学で関東地区に職場があり住んでいる者と言うことで、宇部高専だけだったけれども過去４回やりました。ただ、ずーっと思っていますが、社会の高専に対する地位・社会的理解が足りないと思うし、我々も機械・電気・土木・化学とやってきて、もう少し世の中に貢献したいという思いがあります。皆さんお持ちだと思います。そこで、ヒューマンネットワーク高専という全国規模での集まり。私なりにお手伝いしたいと思います。また今日も30名40名の方がお集まりで、北は旭川・南は沖縄、にはなかったかと思いますが鹿児島まで、広い地域に広げていきたいと思います。本日代表幹事は３人ですが他のお２人のご指導を戴きながら運営して、お役に立てるよう頑張ってやっていきたいと思います。宜敷お願いいたします。

新代表幹事　田玉　治實

ご挨拶は井崎さんの方から戴きましたが、私は総務を担当させていただいております田玉と申します。宜しくお願いいたします。

新代表幹事　石山　彰雄

富山から来ました石山と申します。実は私は富山高専同窓会をまとめておりまして、きょうお話あったことは常々思っておりまして、高専というものを世の中にアピールしていかなければいけないし、制度そのものも取りあえずは名称変更やってしまえば社会的にも違ってくるのではないかと、そういう感じがするのですけれども、そういう意味におきまして実は同じ頃、昨年ですが北陸の方で、富山・石川・福井の高専の同窓会長を集めまして、組織を作らなくてはいけないんじゃないかと話をしていたところです。

そこで高専学会が出来たという事で、その学会誌を見たらヒューマンネットワークが載っていた。私の所に話が来るのが非常に遅くて、そういう状態になったわけです。せっかく組織が出来たのだから私も乗せていただこうという事で、今日寄せて頂いたわけで、全国の高専の卒業生が結集すれば、出来ないことは一つもないと私は確信しているところですので、皆さんの力を合わせてやっていきたいと考えています。

代表幹事といいましても私がヒューマンネットワークを牛耳っていける訳ではありませんので、片田舎におりますので、先程事務局長が言われましたが、北陸だけでもという様な話の中で取りあえずお受けしたような訳です。ご了解を宜しくお願いいたします。

分科会による意見交換

総合進行　田 玉 治 實

（第１分科会）

《ヒューマンネットワーク高専の運営》

パソコンネットワークの構築、仲間作り、会費等会の運営に関する意見

座　長　白倉　英一（長野３期）
記　録　内藤　芳雄（長野４期）

白倉　どうやって会を運営していこうか、或いはどうやって会費を頂戴していこうか、を討論していただきたいと思います。では自己紹介からお願いします。

内藤　私は長野高専４期電気工学科の内藤です。

ヒューマンネットワークには昨年より参加して、パソコンネットについて幹事の田玉さんと、たまに意見交換してやっていこうかなと話をしていました。そういいながらも長野と横浜の距離感がありましたので、活発には出来なくて反省していますが、田玉さんのご尽力のお陰でパソコンネットが出来て、皆さんが意見を言えるような環境になっているのですが、どうやって拡大していこうかと私なりに考えているところです。

坪井　長野高専４期の坪井と言います。

実はこの会合に参加するきっかけになりましたのは、高専を卒業以来25年間仕事の関係で名古屋に住んでおりました。今年の３月にふるさと転勤というのがあって長野に転勤となり地元に帰りました。

仕事の内容も今までは技術の分野でしたが、今度は営業の方に移りまして地元で営業をやれよという事になったものですから、何らかのつながりをもって営業活動をしなさいということで、本日は欠席されていますが大工原幹事の紹介で、この春に会合があるから一度顔を出したらどうか、ということで初参加しましたものでまだ新人の状態です。

ちょうど３月から半年経ちまして営業とは足でつながらなければだめだという先輩のお話を聞くに当たり、何らかのつながりを持って人生にも活かしていきたいと考えて本日参加いたしました。

今井　長野高専４期機械科卒の今井と申します。

私はこのヒューマンネットワークの当初から参加させてもらっています。それは事務局長を担当している宮下さんが私の会社の近くで事務所をやっているという関係で参加しています。

私は設備の会社をやっており学生時代の機械科からは遠く離れてしまっていますので、パソコンネットワークというのは理解は出来るのですが、実際に自分の手でというとなかなか億劫なものですから、従業員がやってくれるという事で、私自身が自分の手ですることがないものですから、疎遠になってしまっていて反省はしているのですが…これを機会にもう一頑張りしたいと思っています。どうぞ宜しくお願いします。

成岡　新居浜高専の成岡と申します。

実は私はどちらかというと会社というより組合の役員をしております。組合の問題を処理するためにパソコンを買いましてパソコンを覗いたときに、BBSで高専というのがありましてちょっと覗いたところでこの会を知り、積極的な役割というのは考えていないんですが、何かのきっかけにはなると思い参加させていただきました。

組合の役員の間はいろいろ物を言うのが難しかったけれど、今度ようやく任を解かれましたので今度はいろいろ物が言えるかなあと言うことで、ネットワークが抱えているいろんな問題や、同窓会の問題関係なんかを考えてみたいと思います。

青井　佐世保高専４期機械工学の青井です。

２年程前に私の学校の中部地区の同窓会がありました。その時に準備委員会の方々がお見えになってご紹介頂いたのですが、その後身辺にいろいろありまして、ご紹介だけ頂いて、あることは解ってはいたのですが、そのままになっていましたところ、最近偶然ニフティサーブの掲示板の中でこのネットワークの案内を見まして、まだやっていたのかと早速入会した次第です。パソコン通信を始めたのも、２台のパソコンが自宅にありまして、２台のうち１台は通信に使おうということで始めました。

私の学校は日本の外れにありますので、地元には殆ど残って居らず全国に散らばって働いており、私の年代となると90％が県外に出てしまい、一番遠いのは北海道に居ますので、日常のつき合いがあまりありません。学校が違ってもちょっと変わった学校を出ておりますので、会社のつき合いだけでなく横のつき合いを得たいと思い参加いたしました。私のまわりの学校も長野さんみたいにつながりが密接でございませんので、私の会社にも元々の親会社とかにも大勢いるはずなんですが、あまり行き来がございませんので数え上げて、これを機会に広げていきたいと思います。

白倉　仲間づくりという面から始めてみませんか。パソコンについては私も今井さんと同じように、事務員まかせで具体的にどうしたらいいかよく解りません。どういう風に掲示板を覗いたらいいか、そういうテクニックもございません。内藤さんも通信メーカーですが、携わっている様ですので仲間を広げていくにはどうしたらいいか、少し意見をお聞かせ下さい。

インターネットを覗くという風なことは結構難しい物なのですか。

内藤　いや　非常に簡単なんですよ（笑い）皆さんは家庭にお持ちですか。私は３台目です。

今井　私は無しです。どのくらい持っているんですかね。

青井　私はディスクトップのやつと、会社は当然ですがニフティ・PCVAN・ニフティからインターネットですね。私の同期なんかパソコンは軽薄というかいろいろ言って嫌がっている人もいますね。

内藤　家庭でパソコンと言ってもワープロと通信位しか使いませんね。あとは残業マシーンですか。（笑い）

青井　価格も10万位から使えますね簡単なんですけどきっかけが無いんでしょうか、年をとって急にというのも大変でしょうが、お金がないわけではないですから…本当のパソコン通信のマニュアルを同窓会の方で配るとか、そういうことのサービスが欲しいかもしれません。

白倉　ということはこの中でも半数くらいはもっているのですかね。

今井　時代ですかね。白倉さんとか私みたいなのはこの世の中からちょっとはずれて居るんですか。

成岡　私の同級生は買うって言いませんね。抵抗あるのですね、我々抵抗あるんですよ10万やそこらたいしたお金じゃないんですけど、充分お金もあるはずなんですけど、そして情報交換しようといってるんですけど買うって言わないんですよ。

白倉　それはインターネットですかニフティですか、どちらが多いんですか。

成岡　ニフティの方が簡単ですよ。

私はＦ４って押してＦ５って押したらパーと出て来る様にしてあります。後は字が出て来ましたらいけばいいだけです。

内藤　オペレーション自身は簡単ですがそこまで行くまでの最初の先入観を取り除かないと。

白倉　アクセスの費用的にはどうですか。

内藤　ニフティは利用により高速対応、料金で月2000円位ですか。低速ですと安いですね。使えばお金が掛かりますが大したことはありません。後は通話料くらいで知れてます。今学校にもパソコンが入っておりますので学校にもプロモーションしたらどうですか、若い人が来ると思います。Niftyは日商岩井と富士通が50・50で作ったんです。Niは日商岩井、fは富士通の略です。同窓会で訴えてみたらどうですか。

今井　長野に用事があって来たとき宮下さんと偶然一緒になりまして、同窓会があるからと言うのでよってみたんですが役員ぐらいで殆ど一般の参加者が居ない。何これって感じですよ。

成岡　少ないんですか。

今井　少ないなんてもんじゃない役員だけ、幹部しか居ないんですね。一般の方が５～６人こんな事じゃだめだ、会費だけは取っている訳だから、じゃあこの会費はどこへいくんだ、聞いたら貯金していると言うんですね。何かやらなければダメだろうなと言うことになりまして。

成岡　どこの高専の同窓会も似たようなものじゃないかな。地元に残っている人が少なけれ

ば当然ですが、活発でないですね。学校の中に置いてあるようでOBの中に教鞭を取っている人が事務局と言うようでね、難しいですね。東京にも同級生が10人位いるんですけれど神奈川地区ぐらいの所で年に一回、５人ぐらいは集まっていて、これはもう年中行事にしています。最終的には今言ったように地域に於いて仲間づくりを考えた方がしやすいと思います。ある程度の年相応になりますと横との連絡も学校が違っても親近感を感じるようになるので、身近なところから始めることが良いと思います。その際にパソコンで集まりがありますよと情報を流しておいて広めていくみたいな事がいいですね。

白倉　そうですね、先程提案があったように全国100グループ。100は暫定ですけれどグループにして、さっきお話にあったような神奈川県の新居浜の電気の方が１グループ作り登録してもらって24,000円の会費でやっていけば出来るんですよね。そんな様なとこらから進めていって欲しいですね。

成岡　コンピューター１人ぐらい持っていますので出来ますね。

今井　パソコンという言葉が難しいなあ。

内藤　出来る出来る。資料を持ってくるのを忘れたんですが、先々月ぐらいインターネットをいろいろ探したんですよ、そうしたら高専欄に書き込むところがあって、全国の高専卒業生からいろいろ書き込むところがあったのです。そういうところを利用する手もあると思います。

成岡　全国いろんな所にいろんなグループがあって、そういうのをトータル的にまとめようとする役割をこのネットワークが果たせればいいですね。

インターネットについてはパソコンでなくても手帳型でもテレビでも出来るようになった。三菱とシャープから出ていますね。そうなると手軽にアクセスできますから、テレビでもできる時代ですからそう心配いらないですよ。

白倉　費用は１人ずつ入会しますと１人6000円（年）ですから、費用が掛かっちゃう訳ですが、例えばインターネットやニフティ使ったした場合にどういうふうに費用負担していけばいいかとか。

成岡　金を払える人は少ないと思います。BBSにアクセスして無料の時はいいですけど、いざ入会してお金を払う段に抵抗ある人もいるはずです。まあ、私なんかは懐かしくなって寄ってきたのですけれど。企業人だからと考えれば安いと思うけれど、これだけ集まってみんな違う感じの人と話せば、明日からの役に立つので商売に結びつける人もいれば、いや知らない分野の話が聞ければの人もいるし情報は早く手に入れた方が勝ちみたいに思えば、グループで払えば大勢集めれば24,000円を皆で負担できれば安くいくので良いではないでしょうか。

今井　上納金24,000円で後は集めたお金でグループ運営していけばいいか。

白倉　会員としては若い人については難しいかも知れませんね。ある程度年がいって懐かしいというところもありますし、もう少し輪が広がってインターネットを覗いた時に色々な情報

が手に入ることが解れば、費用を払って参加しようというふうになってきますね。そのような格好に発展させたいと思うし、又、核になる人がいてある程度年代の人がいて色々なことを知っていて仲間を集めて、会計がいてその人が一括集金して、例えば10人とか20人とか集めて割ればどうでしょう。会費は一人当たりは少なくなるのでお金は考えなくてもよくなるし、又、核を広めていくようなふうになれば良いですね。

今井　我々の年代は入ること自体は若い者と違って抵抗はなくあ・うんの感覚で入るんですが。只どこに意義を見いだすかで難しいですかね。ある程度年齢がいけば必然になるような気がしますが、やはり40近くなると考えるんですかね。社会的にはある程度になって仲間をほしがるというふうになって来るんですね。ただパソコンについては理解はできるが、使えば便利なのは解るが使えない、というふうにこんどは若い人にはこのネットに対して、気持ちは解ったが入るのはどうもという人も多い。しかし、青井さんの様にその時はそうかと思ったけど入らなかったけれど、２年後条件が整ってきたときに入会するようなもので、広めておく必要はありそうです。継続は力だと思います。

内藤　そうですね、将来の会員となるわけですから。

青井　私なんかパソコンの１台は会社に置いてあって、それが無ければ仕事進まないですよ、キーボード打つ方が楽になって、鉛筆が使えなくなっています。消しゴムがいらないのは便利ですよ。

成岡　話をしてみてこういう会というのは出来ては消え出来ては消えという感じで、今お話があったように、継続といわれましたが、継続して信用を得、社会的にも信用のある組織だというのをいかに納得してもらうかと思いますね。信頼度の高い組織なのだと解ることと思います。費用といったって税金よりずっと安いですし、月に500円ですから問題ないですよね。

青井　きっかけが無ければ払うことが出来ないだけで、払うことに問題があるわけではないですよね。お金出す行為というものがない時代ですから。意義を見いだせばめんどうでも払うんではないですかね。

先輩が言えば入るかも知れないけど、相当続けていく事に努力して、例えば歩留まり悪くても努力しないと同窓会とは最初にとにかくたくさん広げて、卒業する人は必ずいる訳ですからいろんな手を使ってPRをしてとにかく広げておいて、その中で払ってくれる人を増やしていくしかないと思います。広げていくだけでお金が掛かるわけですから、プロモーションするにもお金が掛かりますしね。

白倉　集金については一人ひとりから事務局が集めるのは大変でして、それに金と時間も掛かるので小さいグループに集金係というか情報の窓口を兼ねる役の人を設けてそこで集め、まとめていく方法の方が楽になるのではないでしょうか。全員を相手にするというのは大変ですからある程度グループ毎になっている方が楽かも知れませんね。大きな会社単位、100人位の

単位でも一つにまとめていく方が無駄な経費が掛からないで運営できると思いますね。

成岡　NTTには旧高専時代から高専会というのがあって、そこに高専卒が入ってきた時に参加させてもらった経緯があるようですが、社内にそういうものを作ってはいけない空気があります。こじんまりと集めてはいけないよという社風がある。一般的な会社にはそういう空気がありますね。

今井　派閥に連なるからまずいと言っている所もありますね。ヒューマンネットワーク高専は会社に協力はするけれど、良いとも悪いとも言わないところもある。たとえば、長野県に来れば信大の教育学部を出ないと教頭以上には絶対になれないのがありますね。我々一般からみれば、東教大の方が優秀だと思うけれど校長にはなれない。信大を出ていると言うだけで段々上がっていくのが現状だから、そこに新しい派閥が出来るのは好まないのではないですか。高専卒業生だけで出来ている会社でもあれば別でしょうが、そう言う一面あると思いますね。

青井　私の会社は学閥がないんです。現場のたたき上げによって上司になっている人々がいますから、会社で学校単位で集まって何かすることはあまりないですね。

内藤　会社の内ではそういうふうに出来ないですね。

白倉　そうするとやはりインターネットとか個人の対話の情報の窓口の方がやり易いと言うことですね。

青井　私はやはりこういうのは自分でやりたいから参加するという、個人ベースだと思うんですね。

内藤　基本は個人のグループからですね。

青井　会社とかの単位にすると長続きしないと思います。個人でやりたいと思う人を集めていくという方向だと思います。

白倉　今のはそういう人をベースにするとして集めるのも、会社でというのでなく同窓会とか高専の電気の4期とかの方が集めやすいですね。各校で努力してもらうということですかね。

内藤　グループ作りというのはそういう意味だと思います。例えば私と成岡さんと家が近いから湘南地区というかそういったところで、毎月というと気が重いから半年とか何回かに集まりましょうということが出来ますね。

田玉さんのやっているBBSのネットあるでしょう、あれも結構投資してやっていますよね。そのアクセスポイントがいま田玉さんの会社なんですが、長野県なので電話代が掛かっちゃうんで大変なんです。折角あれだけ作り上げたんですからあの活用というのを考えなければと思うんですけど、多分アクセス回数少ないと思うんです。私もやはり電話代考えてあまりアクセスしないんです。たまに覗いてもそんなに意見がUPした人たちじゃないし、すぐに切って戻るという状況ですね。

秋山　電話代というのはですね、長野・東京間夜でも3分100円位掛かりますよね。難しいで

すね。

青井　私も月に一度くらい覗くんですがあまり書き込めないですね。事務局の方が書き込むニュースは見ますけど、他はあまり見ませんね。時間高いですからね。さりとて他の方法もお金が掛かりますから、いろんな方法を考えて歩留まりよくしていくことを考えるしかありませんね。

白倉　ところで会費の額なんですが、今の入会金10,000円・個人会費6,000円・グループ会費24,000円というのはどうでしょう、高いとか安いとかどうでしょう。

青井　私は高いとも安いとも思わなかったですね。

白倉　入ってくる年代に達した人はそうですかね。

成岡　余裕ある人は構わないかも知れませんね、ただそれに値するだけの価値があるかどうかというところだと思うんです。どんな会でもやはり5,000円位はしますよね。値するかどうかの判断が出来るアピールをしていくしかないと思います。

内藤　我々の場合はこういうのを作ろうといって会員になっている訳だから構わないけど入っていただくにはね。

今井　これから会員を募るときにどうするかだ。

白倉　基本的には仲間づくりというか坪井さんが言ったように地域に必要になって、頼っていこうというふうになれば、そうなれば惜しくはないからね。

青井　全国一遍に集まれるのはこういう総会しかないですし、例えば九州とか中部とか北海道とかエリアを狭められれば集まりやすくなるので、こういう小さい単位をたくさん作っていくネットワークで呼びかけても良いし、手紙で呼びかけても良い訳だし、頻繁にすれば段々残っていくのではないですかね。

白倉　取りあえず費用の方は10,000円とか6,000円にしておいて、払える価値のある組織にしていきたいという事ですね。

成岡　営利的な団体では無い訳ですから対価があるとか無いとかという事でなく、価値観があればそれで良いわけですよね。

白倉　小さいところで集まってやるところから始めるしか現実的には無いと思うんですね。例えば九州の人が東京で出来るわけないし、福岡で何かある時にきっかけにして集めてもらってやれば可能ですから。そんなような感じで作っていくことですかね。

坪井　ネットワークの講義って言いますか、誰かその人がおられて講習とかをしてくれるような人はいませんかね。

白倉　お二人の方が適任ではないですか、そういう意味ではパソコンを知っている人に講師になってもらって、私ら年寄りが教わる、実際食わず嫌いでして、やらんかっただけでこんな便利なものはないのにわからんということで、頭の中では理解しているのだが実際には手が出

ないというところですよ。自分達の知らない分野の教育というか技術の向上みたいなところで講師になってもらって、当面必要なのはこのパソコンですね。こういう提案はどうですか。

内藤　パソコン通信及びインターネットのオペレーションの普及ということですね。

（第２分科会）

《ヒューマンネットワーク高専と地域のOB、社会との係わり》

地域における私たちの役割、後輩に対して何をなすべきか？

座　長　宮下　和美（長野３期）
記　録　降旗喜美男（長野４期）

宮下　表題について始めにお話しさせていただきます。OBとしてどのように参加していけばよいか、又後輩とはどのように接してよいか考えています。私は一桁台の３期生ですから単に先輩として考えれば良い訳ですけれど、10期から20期位の方の場合は先輩でもあり後輩でもある立場ですので、彼らに聞いてみますと、地域で何かしようとしても先輩達がいるので、ちょっとやりずらい、と言ってます。一度飲み会なり開いて、それらしい人にあんたやってくれといえば、次からはその人がリーダーになって活動出来ると思います。

彼らが社会進出を考えたとき、先輩に遠慮するみたいで、仕方がなく個人として行動している様です。例えばライオンズクラブの様に、これは社長の場合にできるのであって、技術課長等では難しいと思います。

私達もライオンズみたいな団体行動も出来ればいいなと考えていますし、地域の先輩としての我々の責任は重いと感じています。ある程度行動しなくてはならないのではないかと思います。

社会では、早くに卒業した人は出来ても出来なくても、優秀なんだとごまかせますが、逆に後輩の方々には、優秀なのに優秀でないような社会の色メガネがあります。若いんだから当然いろんな事がありますが、そういう時に対して先輩のフォローがほしい、先輩のフォローがあった企業の場合はその人も伸びるけれど、それがなかった企業は以前に一人雇ったけれど今は採っていませんみたいなところがあります。

横澤　一桁台・二桁台、最近の方と居りますが、就職して最初の時代はそれに追われ、結婚もして生活に追われ、30・40才過ぎて何かしなければと考えています。社会人になって悩む時代は初めの３年、５年位は一番悩んでいます。

大手企業は高専卒の仲間も多いのでグループで会費を負担する方法が、若い人の経費負担がなくていいのではないですか。私も若い時は学校へ行ったりしてつながりは持っていましたので、こういうグループにして活動すれば若い方の意見も反映できるのではないかと考えます。

入りやすい会を考えていきたいので、小さなグループを作って声をかけ易い形に作ってあげれば後輩にはよろしいかと思います。

小林　名簿をみますと一桁台の方は長野高専卒で、二桁台の方は長野以外の方々が活動しておられるようですね。うちの会社の若い人に声を掛けても母校に対して積極的なふうは見えません。先輩として講話の時に言った事もありますが、若い人に元気がないのは寂しいですね。

私は社内では会を作って、つながりを持っていこうとしています。年一回酒を飲みながらやっています。

この頃の高専の話題でも、競争率が下がったというような新聞記事をみる度に、我々先輩が何かしていかなければならないと思いますし、これから高専を目指そうとする人たちにアピールが必要と思います。

米内山先生　高専は長い目で見るとじり貧状態です。ひとつの学校の種類としては珍らしいけれど、専科という目で見るとそう変化のあることをやっているわけではないです。都立航空は珍らしいけれど高専というのは中途半端です。たとえば受験時に大学から案内がきますが、都立航空高専高校と書いてある、衛星コンテストで優勝しましたがそこから来るメールは、都立航空高専大学といってきます。

認識がニーズにより様々です。社会が高専を認識するためにも全国の高専をネットワークしていこうと思っていた時に、OBによるネットワークの案内があり、さすがだなと思い非常に嬉しかったです。趣味のワンゲルの顧問をしてOBの方とお付き合いがあり、３期の先輩が来られて、その直後に学会ができたので入れよといって入れました。そういうふうに、一度も教えた事がないのに会えば通ずるものがあります。どうも本籍地は高専なのだと気づきました。

19才20才のさなぎから脱皮する時に過ごした学校は忘れがたいものがあるようですね。

高専のWWWに卒業生のアドレスがあるので利用して下さい。お話に対して返事は返す方針なので、かなりいろんな面でお付き合いできると考えています。

宮下　インターネットについては教えていただいて資金を集めてアクセスして利用したいです。なんとかして、学校にもありますので近づいていきたいです。学校にも校内ランができたし、ホームページも持っているので全国へ通ずる訳だからどこかへ入れば全国へつながるはずですよね。

米内山先生　NTTにも無料で入れるホームページがあります。高専学会の委員をやっていますのでそこでホームページを作ろうと思います。文部省に学術擁護センターがあり、そこは学会であれば無料でアクセスできます。文部省の掲示情報センターに行けばアクセスする人も多いので、今手続きしている最中です。ヒューマンネットワーク高専も是非どうですか、学会がうまくいったら紹介しますので検討したらよいです。

宮下　お願いします。

長野高専にヒューマンネットワーク高専のホームページをどうですか。

佐藤　いや自分達でプロバイダをすることを考えてみましょう。

宮下　このネットワークがプロバイダになれば、会費もそれで間に合わせて皆がアクセスすればペイしますよね。皆がパソコン導入してその方向に向かえば面白いですね、私はこの間3台買いましたが道具ばかりあっても頭がないので苦労していますけれど……。

平倉　私はアレルギーだけどノートは2台目です。会社の業績等、表計算しているけどインターネットを勉強しなければと思っています。自宅のそばにアクセス出来る人材を見つけなければ……そういうのには若い女の子とかね。

宮下　それで、今回組織のルールを変えてグループ制度にしました。リーダーがいて会計がいて、インターネット出来る人がいれば活動できます。お年寄りはインターネットにまで行く必要はないと思います。若いOBにやってもらう事を考えれば、グループの中の交流もできるし外ともつながります。

5年もすればそういう時代になると思います。今悩んでいても必ずそうなります。我々はアレルギーはあるが子供には何もないですね。私に息子がいるけれど、何も教えないのにniftyをやっていて、帰ってくると事務所へ行き何かやっています。そうすると請求書がどっときます。そういう世代なんですね。スイッチの入れ方も教えてないのに勝手に開いて、通信して閉じて帰って行きます。息子がいなくなると画面にキャリアがびっしり残っていて、コンピューターがパンクしそうになっています。そんな状態です。若い人はそうです。私達の後輩も又同じだと思います。

平倉　この間1期の先輩に会いましたが、この年代になると人が恋しくなる年代なんですね。声を掛けたら、参加したがっていました。

また少し離れた後輩はこちらでは分からないけれど、相手の方は分かっていて、十何期の方に後輩ですと言われました。名刺交換の時に、あなたの所と私の所で三人いるけど、こんど飲み会をやろうと話しました。

一桁は薄い円盤だと思います。厚くするには交流を深めていこうと思っています。S社などは人数は多いけれど忙しがっていて難しいですね。むしろ、社内に少ない方の人々のところにニーズがあるので広めていきたいです。

高専の競争率は2倍以上あると嬉しいし、優秀な人材が集まるらしい。高専らしさを失って欲しくないと思っているが、大学予備校としての学校になりつつあるみたいだけれど、そう言うこともある程度必要なのかな。私もことあるたびに子供達に高専に行けと言っているのだけれど。

森校長　中学に高学歴指向というのがあるけれど、高専というのはこういうふうだ、入ったらこういう事があるというのがない。PR不足かも、皆大学へ、大学院で完成という考えがあ

り、我々は一応は完成していると思っているけれど、まだ不十分という考えもあります。そのうえで更に学びたい人は上に進むということはよいと思います。

長野県の普通高校の大学進学率は低いけれど高専からのそれは殆ど100％に近い……これはあまりPRしてはいけないのですかね、悩めるところです。

米内山先生　航空は2割位進学します。都内ですから中学生に見えていないので、入学してからイメージが違うと感じてコース変更していこうとするのも、救わなければとも思います。最近は文系でも編入を認めるので、3年までは頑張れと言っています。

…というふうには使えます。何しろ見えませんから、進学率のことも宣伝せざるを得ません。又女子学生も入れれば競争率が上がるので、受け入れるようにしています。

中学校で進学説明会があるけれども高専については一行位しか説明がありません。高専の場合存在感が感じられないのですね。説明など無いのではないだろうか。

長野とは違って、大学へ行くのには…というのがあるので我々のところが見えてこないんです、何となく寂しいですね。偏差値とかで流されているので勉強しているのかいないのかどちらかになってしまい、子供の人間性を…という部分では非常に少ないです。

地方の方が高専のイメージは強いので、地方で“ワッ”と声にすれば広がるが、東京では聞こえません。本当に大勢住んでいる訳だけれど分かりません。実際には30万の何割かはいる訳だから、本当は声を出してみれば聞こえるはずですが、北海道・九州からも出てきているはずなのだから、3万人などといわずもっといるはずなのですがね。

佐藤　埼玉には高専がないです。子供は初めは、高専に行こうという気持ちがあったのですけれど、選考で違う方に行ってしまいました。埼玉にも高専があればと思います。

会社単位で考えても近くの会社にOBはいるはずなのに、どういう訳で埼玉には高専がなっかたか。あれば若い子供も進学しただろうにと思います。私立があったからでしょうか。

米内山先生　地元にあれば会社にもおられると思うけど、今がない学校はちょっと違うなと思います。高専は越境もできるし、都立は2校あるけれど教育制度の中で制約を受けているので解放すればもっと、神奈川・埼玉・遠くは北海道からも人は来ると思います。本当は解放し易い学校なのですから。

降旗　社会に出て独立したけれど、その時急に勉強する必要に迫られまして、その時つくづく思いましたけれど、学校は学生の時に勉強しようという気持ちにさえなれば、いくらでも出来る環境だったと思います。

学校というのはパソコンをしようと思ったり、何かしようと思って勉強したい子供には、好きなだけ学べる環境にあるところだったことに気づきました。学生生活というのはそういうものだということに、私は当時何も勉強しなくて社会勉強をしていましたが、学校というものはこういうものだということに、その時に気づきました。

米内山先生　これは是非、高専学会にOBとしてこういう異色の体験として、学会にも参加してもらいたい。勉強が好きだ…という子供に、高専はいくらでも与えられる環境はあるので、是非活かして欲しいと思います。こういう話を学生にも話して欲しいと思います。

森校長　本当ですお願いします。

宮下　OBの話は今迄は優秀な方ばかり集めて話している様ですが、本当は今のような話の方が良いのではないでしょうか。こういう部分で学校とOBと学生が連係プレイをしていくことと思います。今日の会議の意見はどこかに反映させてもらいたいと思います。

高専が私共の原点とのお話でしたが。大学を出たりしても最終学歴はどこかの大学院だったけれどと言う方も、また、大学院への試験の最中なのだが今日の総会に来たいという人もいます。試験中で大事な時だけれども高専の会議に出てみたいというんですね。

井崎さんも大学院出なのだけれど、30年経って今高専の代表になっていただきました。この部分に何かあると思います。

大学を出た人は大学卒というが、私たちは高専を出たことを今迄言って来なかったけれど、これからは高専卒ということを、もっと大きな声で言うべきではないでしょうか。

（第３分科会）

《ヒューマンネットワーク高専における異業種交流》

技術分野以外の、経営、営業、その他サービス部門で活躍のOBと技術者

座　長　井崎淳一郎（宇部２期）
記　録　坂本　　明（長野３期）

井崎　皆さんはじめての方ですから自己紹介を兼ねてご意見をお願いします。

坂本　NTTより出向しております。ベンチャー支援・町工場の特許や技術の支援・世に出る技術かどうかの見極め・マルチメディア・エコテクノロジー・地域テクノロジー等日本及び外国へも、お金も組織もない方とのつなぎの仕事をしています。

NTTには３千名弱のOBがいて恵まれています。幅広いビジネス・情報交換の場に利用したいと思い、また資金を出すこともできるし、色々なつなぎ役になりたいですし、東大・京大・ブランドとは別の皆様が集まれば大きなブランドになれるかもと考え参加しました。

池田　プロッタを15年のメーカーの代表取締役になりました。キャド向けの点プロッタ・カッテングプロッタ（看板業界）海外へも販売しています。年商15億弱で、広幅のインクジェット・ニッチ・キャド・～加工に至るプロッタ内コマンドを入れた加工機を作ってみたいと考えています。

人集めには苦労をしています。高専も難しい、大学へはもちろん難しいです。基礎技術がよく解らないので、新しい商品を開発するときに情報交換できるのを期待しています。

今井　初めの会社に８年、５年位前にカメラを使った画像処理の機械メーカーになりました。

装置は代理店を通して売っています。始め白黒の画像にして検査するものを300台位出しました。最近はwin95上でテストするようになり、半導体関係の微小部分の検査機で、カメラの光学的解析では難しい部分を電子カメラにして装置を作っています。

会社を大きくしていくに当たって、人の面と技術の面で利用したいと思い参加しました。

田川　旭川高専14期です。生まれは九州で大分高専から旭川高専２年に編入しました。

マルチメディアステーション（サンクス）の画像圧縮の製作を請け負っています。通信衛星のサテライトのボード市場に出すに苦労しています。６月12日付日経に出ましたら、54社から問い合わせがありました。企画からやっているのでうまく世に出していきたいと思っています。

合田　明石高専電気卒です。建設業ですが、電気設備・空調・水回り産廃等ありとあらゆる建物を作っています。空調などをするときに、新しい会社を知りたいと思っています。空調な

のでエネルギーやCO_2を減らす技術が欲しいと思います。効率やコストとか考えています。太陽エネルギーも欲しいときにないし、どういう物にするかねらいを定めるのが仕事です。

浅利　旭川高専機械２期卒です。一期校の２期で、入ったとき何も伝統がない学校でした。来るはずだった中尾同窓会長が急に海外出張されてしまったので、私が副会長として出席させて頂きました。会社に入っても先輩がいない地盤で頑張りました。フロンティアでやりましたね。きょうはネットワークが出来れば良いなあと思って参加しました。

火力発電のプロジェクトマネージャーをしています。ほとんど海外のプラントを作っていますが、今は台湾の仕事をしています。ですから台湾のノウハウは教えられます。

秋川　都立航空高専出身です。小売業や問屋の物流配送センターのシステム作りをしています。情報システムを含めたシステムなのでお客さんの中に入り込んでいく感じでやっています。今はトイザラスのセンターを設計中です。アメリカのセンターを見たりして、センターのあり方を検討しています。いろんな物を組み合わせてシステムを作っていくのですが、あまり新しい技術でないので、新しい技術を身につけたいと思って参加しました。昔の物流は搬送コンベアーだけだったから、上司は新しいシステムを経験していないので、私達がいつも会社では先端として、勉強しながらやっています。

佐々木　秋田高専電気14期です。東京へ出てくることがあまりないのでいろいろ聞きたいと思って出てきました。

会社は、グループ全体で400名のメーカーの下請けと自社製品の会社です。自社製品部で100名、資材部40名で、自社の分で20億円、トータルで70億円の売り上げです。

秋田市から車で20分位の企業城下町で、バブルがはじけて情報活動しています。危ない会社のうわさを聞く様になりました。市場開拓をしたいと思い参加しました。歯ブラシの植毛機・使い捨てカメラの組立・合理化機械がメインです。バブルがはじけてから、営業が強くなったので要素設計・構造設計・実務設計・部品・制御・組立設計・ばら売りしています。

秋田高専卒が５名いますので、秋田でも何かできるのではないかな。インターネットはプロバイダーを作るところまで来ました。ソフトも95のドライバを勉強しながらやっています。田舎の小さな会社なので知識を欲しいと感じます。

有賀　長野高専出身です。長野からここまで２時間半でつきました。便利になったものだと思います。20年ぐらい前に建設会社を設立し、20名で５億円の売り上げです。土木・建設・造園・空調をやっています。後輩に空調を担当して貰っています。

ローカルですから同窓生には大変お世話になっています。４～５年位前までは、機械出身なのでミリ単位の仕事が上手く重宝がられていまして順調だったんですが、バブルがはじけてからは、官庁関係に弱いこともあって苦労しています。

技術系の人材の確保には苦労しています。勉強していきたいと思っています。

鈴木　長野高専４期です。８年メーカーに勤めて、自動販売機の設計をしていまして、古里に帰り独立しました。10年はおつりで食えると聞きましたがほんとにそのとおりで、しばらくは設計もしていましたが、現在は役所向けのファイルバインダーのメーカーです。新しい情報に飢えてます。

井崎　会社へ入って24年、大学院までいきました。宇部高専卒ですが、総合商社の事務の総合職をしています。技術の知識がないと難しい仕事ですが、ローテクで充分と思っています。商社関係では、独立している人もいますが成功する人は数％ですので、私はあと退職するまでの10年間、頑張って皆さんの支援をしたいと考えています。

輸入をしている小さい企業とのつき合いが主ですが、実績のない企業が多いです。海外の機械通信のものは技術が低いので難しく、相当遅れているものしかないです。

しかし輸入するときに感性・目利き・センスさえあれば意外と楽で、１人２人の企業で始められる個人輸入は、ローテクで充分です。利益は難しいけれど、売れることと、目効きが出来、上手い販路を持てば億の売り上げも可能です。会社を作った人は下請けから脱皮できない方が多いけれども、メーカーと言っても最後は技術を売る訳ですから、ライセンス売り・自社売り・海外迄も考える気持ちでやれば成功します。

１・２年は良くても３年後から難しいので、気概を持ってする事ですね。事業も、ヒューマンネットワーク高専も。組織作りは宇部高専でもしていましたが、継続して事務局をきちんとしてするようにして、継続していく組織にしていく事と思います。

時間が無くなってしまったので、皆さん短くご意見をお願いします

＊管理していくフォーラムにしていけば可能ですね。
＊人材募集も管理して欲しいです。
＊技術が欲しいとか売りたいとか、販路募集や研修・交流を日常のパソコンネットで、そして人と人が会う会議や懇親会を年２回とか計画し情報交換を目指していくと言うことですか。
＊スモールオフィスにして、仮想的に大きな機能を持たせると言うことですね。日本中にネットワークを持って皆さんと助け合っていく。シリコンバレーなんかでは困った人を助け合うシステムになっているので、高専でも作られればいいですね。
＊話が一日に２件も来るけれど、会社の下請けへ出してもうまく乗ってこないので、個人的に知っているところへ話を持っていくようになります。今度は、このネットに載せてみたいですね。今は物理的な距離は無くなりました。海外すらそうですし、きちんとすれば翌日に対応する海外企業すらあります。地方の方がもっと今日的かも知れませんね。
＊個人輸入して、妻が社長で３千万円ぐらいの卸と通販をやっていますけれど、海外の方が小さい者にとっては付き合いやすいですね。小さい者のことも聞いてくれますよ。

（第４分科会）

《ヒューマンネットワーク高専の産学共同研究と高専制度》

研究開発を出身以外の高専にて、専攻科の新設等の問題

座　長　石山　彰雄（富山３期）
記　録　玉井　　満（長野１期）

……（テープレコーダーの不具合により、これより前、録音されていませんでした。あしからず）……

山崎　こんな事やってくれる学校ありませんか。こんなものを開発したい企業・スポンサーありませんかとの受発信があれば有効活用できるけれど、すでにやっていますか。学校としてはお金が掛かるから民間とタイアップして民間からお金を戴いて共同研究の用意はどうですか。

吉田先生　国にも計画がありまして。共同研究とか、高専も大学も学生を送り出すためとだけあるのでなく、共同研究センターとして社会に向けて活発にやっているところ（苫小牧・徳山）、地域の商工会議所等と活発にやっているところもあります。年12回の広報を出して都立では荒川区・墨田区等と行っています。近くに東大があるけれど、何となく近寄りがたいのではないですか、お話ししたところ商工会議所の部長は大変嬉しいと言ってましたね。

お金も付いた共同研究をお願いできないかということは、都立は企業から直接お金をもらってはいけない訳で、都の金庫に一旦入れてきれいにしてからという制度がないのです。次第に出来つつあるけれど、企業の方が学校に来て研究するのは難しいですね。学生に研究を頼むという方が楽です。企業が学校にいうことは必要でありますし、希望やニーズを要求しておく土台づくりからですか。

ここ数年、動きがある企業に行くように心掛けているけれど、徳山は熱心にやっていますが、学生と一緒にできるテーマなら最近多いと聞いています。

村岡　当社は昔から学校との接触が多かったです。官制の試験場との利用が多い経験から大学・高専との共同研究が多いです。テクノバレー企業が学校と共同研究していますけれど、大学とやっていて高専とは少しです。大学に熱心な先生が多く、私はOBだけれど高専の方がつきあいにくいですね。しかし、組織的にも慣れていなかったけれど、ここ数年増えてきました。

今までは地域に対してアプローチが少なかったし、何を研究しているのか知られていなかったが、少しずつ広まってきて今1/f揺らぎというのを利用させてもらっています。この頃高専からの発信が増えてきましたね。先生も積極的になってきたし、我々もノウハウを身につけて

きたのでしょうか。やっとこの数年で始まったではないかと言うところでしょうか。その中でもう少し制度的なものを、明確にして頂ければ、一般の企業でも近づきやすくなると思うんです。

石山　若いせいだと思うんですが、宣伝が下手でしたね。でも最近は段々分かってきたと思います。新聞紙面をにぎやかすみたいなところが欲しいですね。学会とかそう言うところで何やっているのかを新聞で知らせるようになって欲しいです。

玉井　古い体質の会社で農業機械を半分輸出している会社に勤めています。最近新しい環境関連に目を向けて殺菌・脱臭・洗浄の方に向けています。親会社の基礎研究を利用していましたが、いま我々独自のものを探し始めているところです。会社の力がどこにあるか、何が出来るか共同研究の前段階ですが、成長が見え始めた段階で、インパクトはあるので期待しています。

石山　高専の中で現在、環境というのは、物質工学とか工業化学とかその辺りで、とりあえずの分野ですか。環境専門でやっている学科というのはないのですか。

吉田先生　処理的な分野では結構有りますが。

田玉　文部省で高専の宣伝のパンフレットがありまして、見たことが有るんですが、その中で環境の分野は、文部省の中に専門の分野はあるが見てもよく分かりません。

山崎　今までは航空とか商船とか工業とか、あるいは機械・電気・土木・化学とかそう言ったかたちでしたが、平成に入ってからいろんな分野が認められたみたいです。

石山　改革の中身ですがどんどん増やして、身のあるものにして欲しいですね。

吉田先生　実は高専学会の事務局長なんですけれども、もっと大量に働きかける必要があるようですね。

環境工学としての学科はないですが、こういう時代ですからだいたい一人ぐらいやっている人がいるんですよ、私も機械ですが、酸性雨とか降下煤塵を研究していますが、学校単位で取り組むという事は今無いですね。

逆に今度はこちらからお願いしたいんですが、学校の授業中に非常勤の先生にお願いしたい部分が有るんですが、できればOBにやって貰いたいと思うんです。200時間位、企業から派遣を頼みたいけれど、なかなか派遣できないシステムになっていて難しいので、町工場を経営している同級生等に頼むようになってしまいます。常勤も含めて企業から3分の1位お願いしたいのですが不足しています。同期の方でおられませんか。

高専出身者の教官の集まりでも言っていますが、1割ぐらいいますけれど、最近の状況を含めた話を積極的に力を貸して欲しいと思っています。就職ガイダンスとかオリエンテーションとかで、お出でを頂いて後輩のために、積極的に力を貸していただきたいと思います。

田玉　テーマのひとつに有ったんですよ。ここにいる人は大体1回位は出ているのですが、

だいたい一回りしている観がありますので、新しい人を見つける意味でも、データバンク化していく方向で考えてはどうでしょう。ヒューマンネットワーク高専の中でこういう感じの人居ますよと、本人も良いです登録しておきますよというのが有れば、たとえば関東のエリヤで有ればどうにか行けるというように、そういうデータバンクを構築していこうかと思っています。そういう情報を登録しておけば、先ほどの研究の方のデータバンクも大事ですけれども、そういう事もやって活性化を考えたいですね。高専は何となく最近勢いが鈍ってきたような気がするんです。

石山　そういうデータベース化すれば、学校も良いですね。

吉田先生　一高専じゃなくて全国ネットでね。日本高専という考えはそういう意味なんですね。家の近所でも苫小牧高専の出身の人が、単身赴任して居られてたまたま飲み屋でいっぱいやってて、話したら高専の同期の出身だったんですね、学校は違っても兄弟みたいな感じを持てますね。学生の場合は転校が出来るのけれど、同じように教官・OBも学校の枠を越えるのは良いですね。

田玉　インターネットを利用して交流してみますと、オープンにしている学校としていない学校とがありますが、段々に広げていき大きなデータベースを作っていきたいですね。高専には大きなサーバの予算はなく、殆どは近隣の大学へ寄生して校内ランとしてやっているのが多いです。しかし中には高知・詫間電波の様に大きなものを持っているところがあります。高専自体も大きくなって欲しいし、インターネットを覗けばいろいろあります。こういう研究して居るんだけれども、求むとかね。卒業生の同窓会的な掲示板もあるし、最近盛んになってきましたので、もう少しこっちも利用してやっていこうと考えています。

今長野にBBS持っていますが、一番遠いところ函館ですけれど、何しろ電話代が可哀想で、だいたい3分くらいでこちらの情報だけ読んで帰っていってしまいます。若い人はたいがい出来ますから、それぞれのブロックで事務局を持って、若い人でインターネットを作って活性化を進めていく所まで行ければ、高専という制度自体はここまで来ている以上、前向きに話を持っていかないといけないと思います。仙台電波で制度に対する意見の募集と言うのがあって、私と事務局で書いたことがありますが、こういうかたちのものをやって活性化して行くべきだと。そういう動きもありますから、話がお上から出ていますのであんまり広がらなかったのですかね。動きとしては活性化していこうという動きが少しづつあるので、うまくバックアップしていけばと思っていて今資料を集めているところです。

石山　田玉さんだいぶお詳しいですね。

田玉　長野の1期ですけれど、長野は初め殆ど県外に就職しました。地元に就職したのは数人です。富山は最初長野に入学されたので何人か同級生がいますよ。私は、卒業して射出成形機のメーカーに就職しました。そこで10年ほど設計をやりました。後製造関係を10年ほどやり

まして、いまはマグネットの応用機器の製造販売の会社をやっています。工作機械の周辺なんで、工作機械業界が不景気ですから、サイドで企業の経営や業務のコンピュータを使った、コンサルタントが半分くらいです。今までの経験を生かして、中ぐらい会社の業務管理・工程管理・労務管理を、バックアップするのですが、色々細かいことを要求されるので、人海戦術では難しい部分を省力・効率よくするソフトを考えて、経営の合理化と言うことで、4社と専任契約しています。

それで、この会の運営も相談されたようなわけで、こんな仕事コンピュータでも使わなければやっていけないと、お手伝いさせて貰っていまして、言い出しっぺの事務局長のフォローをしています。

それと、組合も作りました、1000人位のです。作るところから潰すところまで、ひととおりやりましたので、たいていの相談には乗れる経験をしています。

吉田先生　高専名称変更のことですが、専科大学への名称変更は文部省から案が出ていたようですが、中身が変わらない場合は無理でしょう。今も研究にウエイトを置く状況にないので高専のまま、上に広げるか下に広げるかを問われれば、国の方針は大学を上に伸ばす考えなので、高専はやはりその下にありますが、高専もまた、専攻科を目指して行くわけです。

また生徒の学力でなく先生の学力により、その学校の質を見るのです。先生のレベルで学生が卒業して良いか見るのです。

今高専の先生の半分が学位がありません。高専が専攻科に向かっていくためには、その学校の半分以上の先生が博士の学位を持っていなければいけない。これは、文部省が決めたんですけれども、学位を貰うには、論文3本以上書く必要があるので、論文を書くことが先生の命題なのです。

今ほとんどの高専が、専攻科になだれ込んで居るんですが、ほとんどの先生が学位論文を書くことで一所懸命になっていますので、教育がおろそかになっているのが、高専の現実です。

そういう点では、かっての牧歌的な時代と、いまの高専の先生のイメージは違います。ほとんど役に立たない論文書いている先生も居ますが、非常に立派な論文を発表する方も大勢いらっしゃいます。昔は研究なんていうと白い目で見られる時代もあって、やってはいかんという校長も結構いましたが、そういう点では、今は充分研究できる利点もあり、先生が立派になれば、学生もそれに習うわけですから良いんですけれど、教育だけという時代から今変わりつつある。

これは研究の方に向かっていて、教育がおろそかになり本題ではないという指摘もあります。こういう中で教育と研究をバランスのとれたものにしていこうというのが高専学会の求めているものです。教員も模索している状況です。

石山　富山を出まして長野のエプソンに居りまして5年間「時計」をやりまして、嫁さんの

家の家業の、畑違いの司法書士になりました。それから図書館通いを2年程やりまして、エンジニアは想像力が必要と思い、文化系は法律を勉強するだけで出来ると思いまして。司法書士も弁護士と違い少し知名度が低いのは高専の立場と同じです。

富山高専同窓会はブランクがありまして、このごろ、力を入れなければと会長になりPRをしなければいけないと思っています。最近入学してくる方がレベルダウンしているのは、15才の方に高専制度を理解してもらうことで、高専制度を改革してPRをすることが必要であると思っています。それから、先ほど名称変更は出来ないということを言われましたが。

吉田先生　名称変更は中曽根内閣の時に、内閣法制局でだめと決められました。臨教審の答申はやれということで、専攻大学の名前は挙がって、文部省もその方向に進んだけれど、結局法制局はだめということで決まりました。

石山　その時の結果はだめという様に成ったけれども、永久にだめだというわけではないので、元々少数派なわけですから、めげずに頑張りましょう。

村岡　私は、名称よりもむしろ中身の問題だと思います。どちらかというと観念論的なんですね。大学なのか高校なのか、きょう何回も議論になりました。違う道を考えて貰った方がいいのではないかと思います。たとえば台湾の場合、台湾では大学は研究開発をやるんです。台湾では企業は製造だけ、大学は国費で研究するんです。企業は製造だけですから、研究開発費はいらないから、企業の利益率はすごく良いですね。そんなように極端まで行かないまでも、なにか高専独自の、大学とは違った道が有るんではないかなと思うんです。

石山　それはそれとして充分論議する必要がありますね。しかし突然難しいテーマから入ってもたいへんなんで、とりあえず簡単な名称変更なんていうのはどうでしょう。PRするには非常に良いテーマだと考えているのです。

村岡　そうですね、名前を変えて中身も変えていくそんな感じですか。そして、教えている内容は同じですから、大学・高専とそれぞれ違った道を研究した方がいいですね。高専には研究・教育以外の道を歩いて貰いたいと思います。中身が変わって欲しいですね。

石山　それにはとりあえず名前を変えて気分もさっぱりして、PRもして。

村岡　大学と高専の違いはと言えば、受け入れる側から見れば、年齢の幼さだけみたいなところがある訳ですから、もっと独自のものが欲しいですね。もっとも、能力は同じで2才若いので純であるだけ、企業にとっては徳な訳ですけれども。そういった意味で、高専生の個性を引き出して頂けるような教育をお願いしたいですね。

吉田先生　そこで私たちが提言しているのが日本高専大学構想です。高専大学って名前にしようということなんです。

山崎　企業で使う側より見れば、20才でくるか、22才でくるかの違いだけですね。20才で来ますから世の中で摺れていないので、非常に使いやすい反面、世の中知らな過ぎるくらいです

か、その差があるだけです。

石山　それでは高専の5年間一貫教育と言うところが出ていないんじゃないですか、20才で来るからそれで良いでは寂しいですよ。

山崎　高専の存在や高専の特徴というものを、全国的にPRされきっていないですね。一番多情多感な15才～20才迄の物事を吸収するときの「一貫教育」ですから、非常に良い制度だと思うんです。ここを卒業した者をどのように扱うかという前に、どういう趣旨でどういう学生を卒業させたかをPRすべきと思うんです。

村岡　上司として部下を見たときに、卒業生である我々でさえも大学との違いが見えなくなってきています。

吉田先生　家の近くに有名な進学塾が有るんですけれども、合格した有名校の表に東京高専高校、航空高専高校て書いてあります。中学生には高専高校なんですよ、しかしもう一方は高専大学なんですよ。高校・大学とむりやり分ければ、その両方持っているのが高専なんですよ。カリュキュラムも構造も普通高校と学部の専門学校と足したものなんです。工業高校ではないです、普通高校と短大でもないです。5年制の大学で専門学校なんです。

高専高校・高専大学とありよく解っていないのが現実だけれども、大いにOBの方を含めてこういう場を広げていくことが、実際に高専の活性化につながることと思います。

田玉　一貫教育は自分たちが経験して、どうしたって良かったと思っていますので、もっと良さをPRするべきだと思います。それを伝えきれない私たちに責任があると思います。

石山　そうですね、もっと声を出さなければいけませんね。

山崎　高専制度云々という問題は名称変更も含めて、すぐ結論の出る問題ではないですが、高専の15才から5年間の一貫教育、そのものがとにかく良いかたちなんだと言うことを、社会にあるいは企業に、卒業生がPRしていくかということだと思います。

また、産学共同研究というものは、我々OBからすれば世の中に認知させる意味もあり、後輩との交流も含めて、こちらからすれば是非に持ちたいです。受け入れる高専の方にその気持ちが有るならば、なんらかの情報交換の場作って行くことによって、有機的に発展すると思います。

本誌についてご意見、ご要望などお寄せください。

会員の皆さまの投稿をお待ちしております。

封書・FAXの他BBSボードでも受け付けいたします。

住所　〒386-04　長野県小県郡丸子町腰越2737-286

FAX 0268-42-6850

BBSボード／メール

∈∈∈∈∈　ＢＢＳの詳細は以下の通りです　∋∋∋∋∋

名　称	ヒューマン・ネットワーク高専 （ＨＮＫネット）
ＴＥＬ	０２６８－２３－５６３５
開局時間	終日２４時間
HOST PROGRAM	BIG-MODEL 4.0Bナツメ
HOST PC	PC9821

通信プロトコル

転送制御手順	無手順
通信方式	全二重
同期方式	非同期
通信速度	300,1200,2400,4800,9600,14400bps
データビット長	８ビット
ストップビット長	１ビット
バイナリ転送方式	XMODEN,YMODEM,Quick-VAN
受信時フロー制御	あり
送信時フロー制御	あり
パリティチェック	なし
SI/SO制御	なし
漢字コード	シフトＪＩＳ
受信時改行コード	ＣＲ＋ＬＦ
送信時改行コード	ＣＲ

ヒューマンネットワーク高専事務局

編集後記

1990年に準備を始めて７年、設立総会の模様を活字にすることが出来ました。少ない時間をやりくりしてここまでたどり着きました。全国からお集まりいただき、活発なご意見を寄せていただいた皆さんのおかげです。

ようやくヒューマンネットワーク高専が、かたちになって皆さんのお手元に届けられると思うと、歓びに耐えません。

あと３年で新しい世紀が始まるわけですが、自己変革を遂げ胸を張って世紀の門をくぐりたいと思います。この会が、そのステップアップの踏み台となるように願ってやみません。

この会誌は、パソコンネットワークと相呼応して、皆さんの意見を集約し、ヒューマンネットワーク高専と皆さんをつなぐ架け橋となるものです。多くの意見が寄せられることを期待しております。

（宮下記）

「ヒューマンネットワーク高専」
赤　と　ん　ぼ

〈創刊号〉1997年１月28日発行

発　行／ヒューマン・ネットワーク高専
〒386-04　長野県小県郡丸子町腰越2737番地286
TEL 0268-42-5620 FAX 0268-42-6850
発行人／井　崎　淳一郎
編集人／「赤とんぼ」編集室　宮下和美
制　作／㈱上田ワープロ
印　刷／㈱ＰＯ印刷
定　価　500円(税込)

赤とんぼ　里に降りてきて赤くなる赤とんぼ。山では個々に活動していた個体も、実りとともに里近くにまできて、小麦色のじゅうたんの上を乱舞するようになります。
この指と～まれ！

ヒューマンネットワーク高専